

平成 2 1 年度 決算報告書

国立大学法人筑波技術大学

(単位：百万円)

区分	予算額	決算額	差 額 (決算－予算)	備 考
収入				
運営費交付金	2, 6 4 8	2, 6 4 8	0	
施設整備費補助金	1 9 9	1 9 9	0	
船舶建造費補助金	0	0	0	
補助金等収入	3 1	4 8	1 7	(注 1)
国立大学財務・経営センター施設費交付金	1 5	1 5	0	
自己収入	3 0 6	3 0 9	3	
授業料、入学料及び検定料収入	1 5 1	1 4 7	△ 4	(注 2)
附属病院収入	1 0 5	1 0 9	4	(注 3)
財産処分収入	0	0	0	
雑収入	5 0	5 3	3	(注 4)
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	1 2 0	3 2	△ 8 8	(注 5)
引当金取崩	0	0	0	
長期借入金	0	0	0	
貸付回収金	0	0	0	
承継剰余金	0	0	0	
旧法人承継積立金	1 5	1 5	0	
目的積立金取崩	2 6 4	2 4 3	△ 2 1	(注 6)
計	3, 5 9 8	3, 5 0 9	△ 8 9	
支出				
業務費	2, 5 0 0	2, 3 7 1	△ 1 2 9	(注 7)
教育研究経費	2, 3 3 0	2, 1 7 5	△ 1 5 5	
診療経費	1 7 0	1 9 6	2 6	
一般管理費	7 3 2	7 0 5	△ 2 7	(注 7)
施設整備費	2 1 4	2 1 4	0	
船舶建造費	0	0	0	
補助金等	3 1	4 9	1 8	(注 8)
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	1 2 0	4 2	△ 7 8	(注 9)
貸付金	0	0	0	
長期借入金償還金	1	1	0	
国立大学財務・経営センター施設費納付金	0	0	0	
計	3, 5 9 8	3, 3 8 2	△ 2 1 6	
収入－支出	0	1 2 7	1 2 7	

○予算と決算の差異について

- (注1) 補助金等収入については、予算段階では予定していなかった国からの補助金の獲得に努めたため、予算額に比して決算額が17百万円多額となっています。
- (注2) 授業料、入学料及び検定料収入については、主として社会人教育支援経費による授業料免除枠が拡大したこと等により、予算額に比して決算額が4百万円少額となっています。
- (注3) 附属病院収入については、主として患者数が増加したこと等により、予算額に比して決算額が4百万円多額となっています。
- (注4) 雑収入については、主として科学研究費補助金の間接経費が増加したこと等により、予算額に比して決算額が3百万円多額となっています。
- (注5) 産学連携等研究収入及び寄附金収入等については、共同研究、受託事業及び寄附金の獲得が不調だったため、予算額に比して決算額が88百万円少額となっています。
- (注6) 目的積立金取崩については、当初予定していた事業が執行できなかったため、予算額に比して決算額が21百万円少額となっています。
- (注7) 業務費及び一般管理費については、教育研究経費及び一般管理費のいずれにおいても経費の節減に努めたため、予算額に比して決算額が156百万円少額となっています。
- (注8) 補助金等については、(注1)に示した理由により、予算額に比して決算額が18百万円多額となっています。
- (注9) 産学連携等研究経費及び寄附金事業費等については、(注5)に示した理由により、予算額に比して決算額が78百万円少額となっています。